

(仮称)宇部市健康づくり推進条例(案)に対するワークショップ意見及びその回答

- 1 開催日時 平成26年9月9日(火)
- 2 会場 シルバーふれあいセンター
- 3 内容 ワークショップ形式でグループ討議
- 4 参加者 71人
- 5 グループ数 10グループ
- 6 各グループ討議での集約意見とそれに対する市の考え方

【第1グループ】 討議テーマ: <健康づくり>子供の健康づくり・成人の健康づくり

キーワード	番号	意見	市の回答
正しい食生活 (食育)	1	・食育(食べる)が大切。肉中心の食事が多い。野菜や魚などを嫌う、好き嫌が多い。	「心身の健康づくりの推進に関する施策」に栄養・食生活に関することを明記します。また具体的な食への取り組みについては、宇部市食育推進計画の見直しの中で検討します。
	2	・食を通じた健康づくりがあると良い。幼稚園、小学生、中学生とそれに関わる先生や保護者、団体が参加するイベントがあると良い。(例: 試食、食品の展示、ゲームを通じて食を学ぶイベント、幼稚園、小学生、中学生がそれぞれが調べたり教えあう機会を作る。)	
	3	・各地区で夕食の一品を作る料理会を行う。調理したものを持ち帰り、その日の夕食にする。(引きこもり予防にもなる。)	
	4	・家庭教育の充実が必要。	
たくましい子ども (体育)	5	・きついことを避ける、特定のスポーツにのみ集中している状況がある。(野球、サッカーなど)早朝のラジオ体操もなくなってきた。参加者も減り、子供会の力も弱くなってきている。コミュニティのつながりが減ってきている。体育(たくましい子どもづくり)が必要。	人材の育成と活用については、「健康づくりの活動指針」で明記し、具体的な内容については活動指針の策定の中で検討します。宇部市スポーツ推進計画に基づき、指導者やスポーツボランティアなどの人材育成、市民の多様なニーズに対応したスポーツ機会や場所の提供に努めていきます。また、平成26年10月に設立した官民協働のネットワーク組織である宇部市スポーツコミッションにより、スポーツ・健康づくりに関する様々な情報の提供、市民の多様なニーズに対応したスポーツ機会の提供に努めていきたいと考えています。
	6	・子どもが小さい時からスポーツに親しむ環境作りが必要。そのために指導者の育成も必要。	
	7	・各スポーツクラブの指導者の育成が必要。	
	8	・子どもに携わる部署(子供会、PTA、文化・体育関係)の人の活用、支援が必要。	
	9	・故郷の名所発見ウォーキングイベントやマップがあると良い。	
	10	・世代を超えて、一緒に参加できるイベントがあると良い。	
	11	・年齢に合ったスポーツの推進が必要。	
	12	・体を動かす集まり、趣味の集まりを支援することが必要。	
	13	・家に引きこもらず、外に出かけられる活動が必要。(例: 仲間を作って今より1000歩歩こう会など)	
リーダーの 養成	14	・学校関係では、助成金がある。一般住民の指導には助成金がない。無報酬の取り組みから、報酬がある取り組みに移っていく状況がある。ボランティアが減っていることもあり、助成が必要。	「市の責務」として、健康づくりの推進に関する施策及び環境整備を総合的かつ計画的に実施するものと明記します。また「人材の育成及び活用」についてもその重要性のため、市の役割として明記します。
	15	・子どもに対するレベルの高い指導者の育成が必要。	

キーワード	番号	意見	市の回答
人を思いやる気持ち	16	・不登校、引きこもり、子ども、高齢者の昼間の居場所づくり。空家の利用ができないだろうか。	「市の責務」として、健康づくりの推進に関する施策及び環境整備を総合的かつ計画的に実施するものと明記します。御提案の具体的な内容については、宇部市健康づくり計画の見直しの中で検討します。
	17	・3世代交流ができるような異世代の触れ合いができる居場所づくり。	
	18	・異年齢集団の交流の場があると良い。子供会やボーイスカウトなどが低調。・ボーイスカウトや習い事など運営がうまくいかない状況があるが、少子化が影響している。親の協力は低下。生活にゆとりがない。親の雇用の安定も必要。	
	19	・高齢者の独居、または夫婦のみの家庭に困りごとなどを家のポストあるいはHELPボックス(家の近くに専用のボックス)などを置き、定期的に回収し、問題解決につなげる仕組みづくりがあると良い。回収者は地域の人。地域での助け合いがあると良い。	
	20	・家に閉じこもり、テレビの番人になる高齢者を室外に出す工夫。ゲートボールやクロケだけでなく生き生きサロン活動など、助成、育成が必要。	
	21	・地域での声かけがあると良い。	
自分で考える力を培う	22	・一人遊びが増えてきた。スマホ、タブレットなどでゲーム、メール、アニメ番組で時間を過ごすことが増えた。	「市民の役割」として、健康づくりの推進に関する活動に参加するよう努めるものと明記します。
	23	・学力の結果のみを求める状況がある。知識はあるが、自分で考えるという事が少なくなった。柔軟性がない。知育が大切。	
	24	・成績のみでなく、学習の過程を考えられる親のゆとりが必要。そのためには親の雇用安定も必要。	
	25	・人権教育だけでなく、人間教育が必要。学力を求められている現状があり、成績が良い子は良いが悪い子はかわいそうな現状がある。	
	26	・子どもが親の講師になるなど、誰もが健康づくりの先生になれるような取り組みがあると良い。	
体験を通じて心の健康を保つ	27	・いろいろな自然体験をさせる機会が大切。心の健康につながる。	心の健康づくりについては、宇部市健康づくり計画に位置づけています。御提案の内容については、宇部市健康づくり計画の見直しの中で検討します。また体験の推進については、宇部市教育振興基本計画と連携し推進します。
その他	28	・地域の格差がある。地域によってはいろいろとやっているところもあるのではないかな。その辺りも踏まえて取り組みを考える必要がある。	「地域コミュニティの役割」として、地域の特色を生かした健康づくりに関する活動に積極的に取り組むよう努めるものと明記します。
	29	・市内で校区割がおかしなところがある。校区外に学校があるところもあり、子どもの見守り運動などうまくいかないところもある。校区とコミュニティを分けて取り組みを考える必要もあるのではないかな。	

【第2・3・4グループ】 討議テーマ:《健康づくり》高齢者の健康づくり

キーワード	番号	意見	市の回答
実態の把握	30	・普段、行事や会合に参加しない人の意見を聞くことが必要。	地域住民の交流の場づくりや地域のことに関心を持つしかけづくりを進めていきます。市民の健康に関する現状や要望等を調査・分析することを市の責務として明記します。また、「地域コミュニティの役割」を明記するとともに市の責務としての健康づくりのための環境整備を明記します。また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	31	・地域住民が何を感じ、何を求めているのか、意見交換の場が必要。	
	32	・個人情報保護の観点から、近所に住んでいる人の世帯構成など、実態がつかめず、声もかけづらい。	
	33	・近所どうしが無関心になってきている。	
個人情報の問題	34	・交流の障害のうち、個人情報云々がしめる割合が多い。守るべき個人情報とは何か？現状の個人情報保護の乱用を防ぐ、社会的風潮が望まれる。	

キーワード	番号	意見	市の回答
誰もが参加	35	・身体に障害があっても参加しやすい行事の開催をしてほしい。	市民が生涯にわたり健やかで心豊かに暮らすことができる健康長寿のまちづくりの実現を目的としています。 また、現在策定中の宇部市障害者福祉計画及び宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	36	・高齢者が参加しやすい(短時間・負担がない)行事の開催をしてほしい。	
	37	・隣近所の人を誘って多くの人に参加できる行事になると活性化する。	
リーダーの育成	38	・高齢者の組織(老人クラブなど)が、衰退してきている原因として、リーダーとなる人材がいけないことがあげられる。	地域でリーダーとなる人材の育成が必要です。「人材の育成及び活用」については、その重要性から、条例に市の役割として明記し推進します。
	39	・「老人クラブ」の名称が悪い。昔は奉仕の団体というイメージだったが、今は「楽しむ会」として周知するとよい。	
	40	・地域リーダーの養成	
	41	・地域の人材活用	
健康 自分自身の健康	42	<動くこと>・誰でもできる宇部市民の健康体操(音楽、歌つき)をつくる	自分自身の健康に気をつける人が増えることで、健康寿命の延伸を図ることができます。 条例においては、市の役割として心身の健康づくりのための基本施策を明記します。また、市民一人ひとりが自らの問題として主体的に健康づくりに取り組むことを明記をします。 ご提案の具体的な内容については、宇部市健康づくり計画の見直しの中で検討します。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	43	<動くこと>・一日10000歩、歩く	
	44	<動くこと>・健康維持の体力づくり(ラジオ体操、ウォーキング、市民の体操)	
	45	<動くこと>・各校区で開催される地域参加型機能訓練に参加する→身体機能を維持する	
	46	<動くこと>・自治会活動(生きがいにもつながる)	
	47	<予防>・定期健診	
	48	<予防>・生涯学習→健康への意識を高める	
	49	<予防>・早寝早起き、規則正しい生活	
	50	<予防>・タバコ、酒をやめる	
	51	<食べること>・食生活の支援(一皿運動) バランス食の推進	
	52	<食べること>・好き嫌いしない よくかんでなんでも食べる 腹八分	
	53	<食べること>・食事や食べる楽しみを続ける	
54	<健康のために教わりたいこと>・料理講習会、男性魚料理教室		
生きがい 人のため、自分のため	55	・月に1回くらい地域で集まり、お昼の食事を共に摂り、講師を招きお話を聞く	人とのかわりを持つことが、心身の健康づくりにつながります。地域活動団体が形成され、さらに連携・協働により、よりよい地域づくりに展開していきます。 条例においては、市、市民、地域コミュニティ、市民活動団体、教育機関等、事業者、保健医療福祉関係者の基本的な役割を明記をします。 ご提案の具体的な内容については、宇部市健康づくり計画の見直しの中で検討します。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	56	・小学校で行なわれる行事に参加され子供達と共に時間を過ごす	
	57	・高齢者の方が日々の生活の中で楽しんで(生きがいを持って)できる活動があるといい	
	58	・仲間づくり 外に出て仲間とふれあう。しゃべる。家に閉じこもらない。	
	59	・老人クラブ等の会に参加する→外出の機会を増やす	
	60	・シルバー人材センターで自分ができることをご自分のペースで続ける	
	61	・趣味を継続する→自分の生きがいを持つ	
	62	・サークル活動に参加する(フォークダンス、大正琴、手芸等)	
	63	・ボケ防止のため、趣味を楽しむ(筆写書 1000字目標)	
	64	・手芸で作った品物をフリーマーケットで販売	
	65	・何か自分にできることを見つめ、生きがいを…	

キーワード	番号	意見	市の回答
	66	・地域の中で自分にもできるボランティア活動をする(サロンの立ち上げ)	
生きがい	67	・目標を持って生きる	
	68	・趣味を持つ	
	69	・感動する心を持つ	
	70	・メリハリのある生活をする。	
	71	・楽しみを作る。	
	72	・異性とのかかわりで生き生きする。	
	73	・なにもせずに、ただ年を重ねる高齢者が多い。	
専門的な学習の機会	74	・高齢者の健康のためには、子供たちの時代から、食事や健康づくりについて早期教育が必要	年齢に関係なく運動・食事について指導者からのアドバイスを気軽に受けられる環境づくりが求められています。 市、教育機関、保健医療福祉関係者の基礎的な役割を条例に明記します。 宇部市スポーツ推進計画に基づき、指導者やスポーツボランティアなどの人材育成、市民の多様なニーズに対応したスポーツ機会や場所の提供に努めていきます。また、平成26年10月に設立した官民協働のネットワーク組織である「宇部市スポーツコミッション」により、スポーツ・健康づくりに関する様々な情報の提供、市民の多様なニーズに対応したスポーツ機会の提供に努めていきたいと考えています。
	75	・認知症予防のためのトレーニング指導を実施	
	76	・転倒予防の必要性や予防のためのトレーニング、スクリーニングなど、理学療法士による指導	
	77	・健康づくり、介護予防、リハビリ専門職によるサポート指導ができるのではないかと	
	78	・科学的な知識の学習	
健康づくり	79	・体力づくり	
	80	・食生活改善推進員が高齢者の食事を指導する場があるとよい。	
	81	・毎日の運動習慣	
	82	・手軽にできる運動習慣が必要	
	83	・イベントや会合の場で健康チェックができるとよい。	
	84	・高齢者でもできるスポーツ(ソフトバレー、ラジーボール、グランドゴルフなど)を推進する。	
健康診断等	85	・健康診断を毎年受けて、自分の健康状態を知ること	「市民の役割」に健康づくりに対する関心と理解を深め、自らの健康状態を把握し、個人の状況に応じた健康づくりを行うように努めるものと明記をします。 また「心身の健康づくりの推進に関する施策」において市は、健康づくりの環境整備として、健康づくりに関する情報の収集及び提供に関することを明記します。
	86	・定期受診や市の健康診断(歯科も)の普及	
	87	・病気やケガの治療など、上手な医療施設の情報を保健センターで確保してほしい	
地域内での役割・仕事づくり	88	・各校区内で有償ボランティアの推進	地域や家庭で役割を見つけて活動することは、健康につながります。条例においては、市及び市民の基本的な役割や責務を明記をします。 ご提案の具体的な内容については、宇部市健康づくり計画の見直しの中で検討します。
	89	・電球交換や草ひき、ゴミ捨てなど、ちょっとしたことを気軽に頼めるご近所のグループ	
	90	・医療や買い物等、外出時の交通手段の確保	
	91	・地域での役割を見つける	
	92	・自分ができる仕事を持つこと(やりがいを持つ)	
役割	93	・地域や家庭の中で、役割を持つ。	
	94	・ボランティア活動をする。	
	95	・子どもたちに、昔の遊びを伝えたい。	
	96	・学んできたことを地域で生かしたい。	
	97	・あいさつや声かけで地域を活化する。	

キーワード	番号	意見	市の回答
校区内で連携して校区の力を強める	98	・地域住民だけでなく、事業所や学校、店など地域内のいろいろなところと連携し、協力し合う	地域・学校・事業所など連携・協力で大きな力が生まれます。関係機関の相互連携による協働は、当条例制定の基本理念となります。
	99	・いろいろな分野・専門職(医療・介護・行政)の連携が必要	
	100	・連携することで、地域の見守り活動にもつながる	
人が集まりやすい施設	101	・田舎に公共施設が少ない。	誰もが利用でき・行きやすく、集える場や体を動かす場の提供が求められています。 特に公共交通をはじめ、アクセスしやすい環境づくりは重要な課題だと捉えています。 「市の責務」に健康づくりを推進するための環境整備を明記します。
	102	・交通の便を良くして、利用しやすい施設を作る。	
	103	・公共施設を市民に無料で貸し出す。	
場所づくり	104	・場所、施設の確保	
	105	・閉じこもりや障害、認知症の方も出かけていきやすいような場所作り	
	106	・高齢者の意見が述べられる場を作り、そこから体を動かすことにつなげる	
	107	・高齢者用のカルチャーセンターを作してほしい	
	108	・地区の健康教室を広く地区住民に知らせてほしい	
	109	・男性の外出できる場所がほしい	
	110	・使わなくなった小・中・公共建物を利用して、スポーツセンターを作る。500～1000円ぐらいで。床運動やマシントレーニングがしたい。	
	111	・自分の楽しめる趣味を持つこと	
助け合い	112	<地域>・地域で生活されている認知症の方たちへのサービス充実(介護保険以外のサービス)隣組のようなシステム	誰もが安心して活動ができる場が必要です。 身近な地域の情報共有・情報提供のしくみづくりも求められており、条例において、市や地域コミュニティの基礎的な役割を明記します。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	113	<地域>・施設で暮らす高齢者の方(障害を持った方、認知症の方)たちが地域の中で安心して参加できる活動の場	
	114	<地域>・見守りにより、体調チェック、認知症の早期発見、消費生活問題への対応	
	115	<地域>・地域で行なわれる行事に参加していただけるよう声かけをする	
	116	<地域>・地域の中で相談できるグループづくり(心の相談)	
	117	<地域>・食事サービスの充実	
	118	<行政>情報が知りたい(市からの見守り確認の電話で、一緒に情報提供があるといい。ポイントラリーがあると楽しいかも。)	
	119	<行政>介護について相談できる場	
	120	<地域・行政>・認知症になっても安心できる支援	
	121	<地域・行政>・情報が得られるような仕組みづくり(イベント案内、地域やご近所のサークルや活動など)	
	122	<地域・行政>簡単なボランティアを紹介(組織)してほしい 例:病院の送り迎えなど	
	123	<地域・行政>市民センターや保健センターの健康教室になかなか行けない人のための送迎	
	124	<地域・行政>デマンドバス	
	125	<地域・行政>市、民生委員、医師、ケアマネなどが情報共有できる仕組みづくり	

キーワード	番号	意見	市の回答
仲間づくり	126	・人と会話することが元気につながる。	<p>交流を通じて心身ともに、健康になれる、身近に集まれる場所づくりは大切です。</p> <p>条例においては、市や地域コミュニティの基本的な役割を明記します。</p> <p>また、ご近所福祉推進活動など地域の人が集える居場所づくりについては、引き続き推進します。</p> <p>ご提案の具体的な内容については、宇部市健康づくり計画の見直しの中で検討します。</p>
	127	・趣味を通じて仲間を作る。	
	128	・意見交換の場があるとよい。	
	129	・女子会、男子会の開催	
	130	・相談できる仲間を作る。	
	131	・集える場づくり	
	132	・近所同士が交流できる場が必要。	
	133	・家族以外でなんでも話せる友人(グループ)が近くにいること	
	134	・高齢者は外へ出たがらない。外へ出て挨拶をする。	
	135	・着替え、みだしなみに気をつけ、太陽にあたる。	
	136	・ご近所で声をかけあって、外出できる場所が身近にある。(茶話会や体操などをする場所)	
	137	・いきいきサロン(週1回)の充実	
	138	・寄り合い所(ご近所福祉)を多く作り、皆と顔を合わせる。そこで簡単な体操をする。	
	139	・人とふれあう機会、場所をもつこと	
140	・強制されない。楽しくできる。		
141	・老人の健康には、付き合える知己、友人が必要なことは絶対条件ともいえるが、サークルへの加入を嫌がる風潮が強い。その障害を除くきめてがれないのが悩み。		
表彰・ポイント制度	142	・簡単な行事参加にポイント制を設ける。ポイント数により表彰する。	<p>「心身の健康づくりの推進に関する施策」に健康づくり活動への参加を奨励するための活動と明記します。地域独自のポイント制度の創設や表彰は、健康づくり活動の促進の有効な手段の一つと考へており、現在宇部市では、40歳以上の人を対象に「はつらつポイント制度」を実施して、健康づくり活動の促進を図っています。</p>
	143	・ラジオ体操を地区ごとに実施。参加状況により表彰する。	
	144	・ポイント制の活用	
その他提言	145	・情報提供はネットではなく、高齢者にあった方法で。市に問い合わせても、ネットを見ればわかりますというのは、困る。	<p>地域の主体的活動を支援することを市の役割として明記します。</p> <p>PR方法については、改善の必要性を認識しています。情報の受け手の側にたったPRに心がけていきます。</p> <p>企画についても参加者の立場から考えていこう改善を進めていきます。</p>
	146	・広報も見ない。もっとPR方法を勉強してほしい。	
	147	・地域性にあったニーズを計画に	
	148	・市の健康づくりに対する、推進・啓発が、総論nは良いが各論が非常に弱い	
	149	・高齢者について、65歳以上とひとくりにするのではなく、60代現役世代、70代、80代、と年齢層に応じたものを	
	150	・高齢者が自分の健康づくりのために参加してみたい企画を提供する	
	151	・高齢者が自分の健康づくりをしようを思ふような具体策を示す	
	152	・健康づくりに対する情報は提供されているが、市民が積極的に参加したくなる状況にない。その理由は何か。	
	153	・もっと先進地等の情報を得て、市は勉強をするように。	
	154	・市から「〇〇してくれ」と補助金を出されても、いずれもらえなくなる。また、金額が少ない。市がどうこうするよりも、もっと校区単位の地域が自分たちで何ができるか考えることも大切。	

キーワード	番号	意見	市の回答
課題 これから大事なこと(健康、生きがい、助け合いにつながる)	155	・向こう3軒両隣のような地域の関係づくり	市民の健康に関する現状や要望等について校区ごとなど地域の実情に応じた調査・分析・研究を絶えず行い、すみやかな的確な問題の把握が必要です。これを市の責務として明記します。特に、参加していない人・参加できない人の意見を聞くことは重要と考えています。 地域での支え合い、連携が大切と考えますので、条例では、地域コミュニティの役割や人材の育成について規定を設けています。
	156	・近隣で気にかけてくれる人、背中を押してくれる人の存在	
	157	・交通手段がない、意欲がないといった、参加できない人への対応	
	158	・世代間の交流を盛んにし、高齢者を理解する気持ちをはぐくむ	
	159	・地域の事業や役割次の世代に引き継ぐ	
	160	・このような会への参加することに補助(金)などで企業の参加を促すことにより理解を広げる	
	161	・若いときから介護予防	

【第5グループ】 討議テーマ:《ひとづくり》人材育成

キーワード	番号	意見	市の回答
交通	162	・老人の足の確保が今後は一番のネック。何とかいい案は?(各地域で循環型バスなど)	「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」の中で、生涯にわたる健康づくりを可能とするための環境整備を明記します。 「基本理念」において、市、市民、地域コミュニティ、市民活動団体、教育機関等、事業者及び保健医療福祉関係者が相互に連携を図りながら協働して行うことを明記します。また人材育成については、「人材の育成及び活用」において、市は健康づくりに関する専門的な知識及び技術を有する者の育成及び活用を図るものと明記します。
ネットワーク	163	・市、社協、各種団体、個人との連携やひとつにまとまることはできないものか。	
	164	・それぞれの機関をまとめることのできるコーディネーターの養成。	
	165	・様々な分野でのサポーター人材のネットワーク化。各種団体のサポーター人材の登録システムを明確に。	
	166	・各種団体のつながりを。どんな団体があって、どんな協力ができるのか。	
	167	・市主導と地域主導の健康づくりを推進しつつ、これを合体させる仕組みも必要。	
	168	・市や社協に健康づくり・生きがいの教室を各地域に増やしてほしい。	
	169	・各事業の方と人材育成について話し合える場を。	
170	・行政で養成された人材を地域で活用するための仕組みをつくる。		
171	・気軽に様々なイベントに(分野が違って)参加できるように。		
校区の平準化	172	・地域での温度差の解消。同じように話し合えるようになれば	
	173	・各校区がお互いに連携できる。そのための人材。	
情報発信	174	・出かける場があることを知る、知らせる。	情報発信はすべての施策の基本となるものです。PR方法などより効果的になるよう努めます。
	175	・健康づくり、介護予防、どんな事業が宇部市にあるのか、利用する方法などをもっと発信していく。	
リーダーの育成	176	・リーダーシップをとれる人材の育成。	リーダーの育成は、重要です。経験や知識を積んだ定年後の人材の活用は、人材育成の中で最も重要な課題だと考えています。現在、健康づくりのリーダー役となる健康まちづくりサポーターの積極的な養成と活用を推進しています。 条例においては、「人材の育成及び活用」を明記します。 御提案の内容については、健康づくり活動指針を策定する中で検討します。
	177	・高齢者人材の「リーダーシップ」の養成教室をひらく。特に男性のリーダーを。退職後の男性が活躍できる場をつくれたら…。	
	178	・各種団体や各地域においてリーダーになれる人の教育を。そういった人を呼び込む。また、リーダーとしての人格も見極めなければならない。	
若手構成員の育成	179	・定年した人をどう取り込んでいくか。	
	180	・人材育成は若手も含めて高齢者の育成を特に増やしていく。	
	181	・若い層を説得し、集めるよう指導が必要。	
	182	・ご近所福祉のような、世代間で交流ができる社会。	
	183	・男女共同・参画で企画できる人材の育成。	

キーワード	番号	意見	市の回答
-------	----	----	------

【第6グループ】 討議テーマ:《ひとづくり》 地域への参加促進

キーワード	番号	意見	市の回答
ひとづくり	184	・責任者(担当者)、役員になる人の確保が問題。どうしてもやる人が固定される。主体的に行動がとれる人は、少ないことを意識しておかなくてはいけない。	人づくりは、重要な課題です。「健康づくり活動指針」に人材の育成及び活用を明記します。
	185	・ひとづくり、組織づくりは、多くの人の意見を聞くことから始まる。	
	186	・目玉となる内容の確保(人、金のかからない)。	
情報	187	・地域住民への情報が少ないので、地域の健康教室やご近所福祉など、どこにあるのかもっとPRが必要。	情報発信はすべての施策の基本となるものです。PR方法などより効果的になるよう努めます。
	188	・はつらつポイントという、とてもいい制度が市にはあるので、もっと市民にポイント制度を知ってもらう。それを利用して、「アクティブチャレンジ」や「動くう月間」のキャンペーン実施。結果、健康寿命が延びる。	
	189	・若い世代は、老人会がどこにあるのか分かりにくい。確実に市民に情報が伝わるシステムを作る。	
	190	・ご近所福祉について、知らない人が多い。どんな人が行ってよいのか等、まずは多くの人に知ってもらう。	
ボランティア	191	・ボランティアに参加する人を増やす工夫をする。生きがいを感じて元気になるような支援をする。	本市では、ボランティア活動やコミュニティ活動などが活発に取り組まれてきた歴史があります。こうした市民活動に参加することは、健康づくりにもつながります。このため、健康づくりの視点から、「人材の育成及び活用」を条例で明記します。また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	192	・定年退職した人などが、地域のちょっとした役割(見守り、ゴミ捨て...)を持てる制度(地域のボランティア)	
	193	・ボランティアという、とかく無料だが、有償ボランティアに切り替える。(現金なくても、ポイントなどを貯めて、地域の商店街で使える金券などに交換する。)	
連携(横のつながり)	194	・校区の役員と連携をとる。	条例の「基本理念」において、市、市民、地域コミュニティ、市民活動団体、教育機関等、事業者及び保健医療福祉関係者が相互に連携を図りながら協働して行うことを明記します。また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	195	・保健センターの地区担当保健師や、地域包括支援センターの方々、コミュニケーションをとれる場を作る企画を考える。	
	196	・校区単位は大きすぎる。自治会単位の組織で取り組む必要がある。	
	197	・地域には、多くのコミュニティ組織があるが、横の連携がない。コミュニティ体制の見直しが必要。	
	198	・地域包括や、地区担当保健師が、老人会等地区の組織に顔を出す。	
外出のきっかけ	199	・得意分野を披露できる場づくり。	条例において、「地域コミュニティの役割」に健康づくりに関する活動を積極的に取り組むよう努めるものと明記します。また外出のきっかけ等については、市の責務として、「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」に多様な地域交流と社会参加のできる仕組みづくりや環境の整備」の明記をします。
	200	・各校区ふれあいセンターには調理室があるので、料理を作って一緒に食べることにもっと工夫して取り組む(年代問わず)。	
	201	・伝承行事継続のため、育成者の養成をする。	
	202	・パソコン教室(パソコンで遊ぶ)、そんなことが校区でできると良いと思う。	
	203	・雨天でも運動、楽しめる場づくり(3世代交流の場)。	
	204	・参加するのに、足が必要。足の確保。	
	205	・ご近所福祉でも、老人会でも、誘ってくれる友人がいないと参加しない人が多いので、まずは近所の仲良しづくりが大切。	
	206	・高齢者が集まったときの一番の話題は、「今は元気だけど、弱ったらどうしよう」ということ。皆不安はある。	

キーワード	番号	意見	市の回答
制度	207	・月2回程度の健康教室を数多く持つ。	御提案の具体的な内容については、宇部市健康づくり計画に位置づけており、見直しの中で検討します。 はつらつポイント制度については、健康づくり施策がより効果的に展開していくようにポイント対象事業を拡大等、引き続き改善していきます。
	208	・たとえば、ご近所福祉のような組織の行政側のフォローの継続。	
	209	・長年地域づくりに携わっている人・団体に何かライセンスを与える。	
	210	・はつらつポイント制度を、個人ではなく、団体にも適応する。	
	211	・医療保険を一年間使わなかった人、半年使わなかった人を表彰する。はつらつポイントの対象にする。	
	212	・ご近所福祉も、はつらつポイントの対象にする(参加する人、ボランティアも含めて)。	
	213	・ご近所福祉や、老人会に入っていない人は、少し弱ったらデイサービスに行くしかない現状だが、もっと自治会単位で助け合いをしたらいいのではないか。	
	214	・地域循環の交通網の発達(出かける場所巡り)。	

【第7グループ】 討議テーマ:《ひとづくり》 いきがいづくり

キーワード	番号	意見	市の回答
バカ話ができる場づくり	215	・バカ話のできる場を	誰もが利用でき・行きやすく、集える場の提供が求められています。 健康づくりのための環境の整備は、市の責務として条例に明記します。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	216	・気楽に集まれる場所	
	217	・茶話会	
	218	・ご近所、友人、知人が集い話し合える場所	
	219	・空き家の活用(人との付き合い、機会作り)	
	220	・空き教室の利用	
できることから始めよう	221	・ボランティア、オレンジサポーター活用したい	地域でのボランティア活動やちょっとしたイベントなど、無理なく参加できることから始めていただきたいと考えています。そのための環境づくりは、市と地域コミュニティの役割として条例に明記します。また、魅力あるイベントの実施ができるよう企画段階から工夫・改善に努めます。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	222	・幸せを感じる場面を多くつくる(人から感謝されたり、人の役に立つこと、生きていていいんだ等、「ありがとう」と言ってもらえる場面)	
	223	・児童・生徒への勉強サポート(算数・英語)	
	224	・地域の環境・美化・清掃活動(花壇づくり、道路草取り)	
	225	・高齢でも、できることは率先して(奉仕、見守隊)	
行きたくなるイベント	226	・常盤公園の各種イベント・提案・支援・参加	
	227	・温泉(楠こもれびの郷)	
	228	・花見、常盤公園などに遠足	
	229	・畑・田を借りて、共同で野菜・花を栽培(楠)	
	230	・庭木の剪定を学んで実施	
	231	・定年退職の男性について、家に閉じこもりがちになるので、「還暦式」のような形で集まって、その後地域のために活動していただく	
	232	・各地域で子供から高齢者まで誰でも参加できる「ラジオ体操」をする。(ボランティアが運営)	
	233	・世代超えて一緒に活動(学校や公民館を活用)	

キーワード	番号	意見	市の回答
	234	・演芸の発表の場を(自分の得意の分野)	異なる世代、異文化交流は重要です。情報の収集と発信を積極的に行い、さまざまな機会に参加できる環境づくりが必要と考えます。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	235	・年齢に合った体操(身体、頭)	
	236	・軽い体操(音楽に合わせて、スクワット・足首を動かす・手首を動かす、ラジオ体操)	
	237	・パソコン(ワード・エクセルの作業手伝い)	
	238	・リクレーション(歌の好きな方、手品)	
地域・近所の情報収集・発信	239	・宇部市活動(各グループ)の広報方法(「うべだより」「回覧の検討」)	
	240	・お年寄りマップの作成	
	241	・声掛け運動(安否確認)	
子供達とのふれあい	242	・子供達とのつき合い	
	243	・何時でも誰でも集える場を設ける(子供、いろいろな世代の方)、ボランティアが運営する「脳の健康教室」	
	244	・昔遊びを伝える	
	245	・手遊び(昔のけん玉、おて玉など)	
外国の方とのふれあい	246	・学生や留学生のホームステイ	
男性を動かすきっかけづくり	247	※最後にメンバーの話題になった事項 ・定年退職後の男性が特に家に閉じこもりぎみになるため、男性を外に連れ出す活動であったり、場所であったりが特に大切	

【第8グループ】 討議テーマ: <<まちづくり>> スポーツ・出かける場作り

キーワード	番号	意見	市の回答
スポーツ・場所の提供	248	・地域のだれもが気軽にスポーツのできる場所が少ないと思える。(ほとんどない)その変容が必要	「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」にスポーツしやすい環境の整備を、「地域コミュニティの役割」に健康づくりの推進に関する取り組みに協力するよう努めることを明記します。 「心身の健康づくりの推進に関する施策」の中では、スポーツの奨励などを明記します。また御提案の内容については、宇部市スポーツ推進計画に位置づけられており、計画の見直しの中で検討します。 宇部市スポーツ推進計画に基づき、小中学校などの学校体育施設の利用促進、地域にある公共施設、民間施設の利用促進、また、地域住民がだれでも、いつでも、気軽にスポーツ・健康づくりに取り組める総合型地域スポーツクラブの設立支援に努めます。また、平成26年10月に設立した官民協働のネットワーク組織である宇部市スポーツコミッションにより、民間施設等と連携して、市民が身近な地域でスポーツ・健康づくりに取り組める場所の提供に努めていきたいと考えています。
	249	・使わなくなった小・中学校、公共施設を利用(転用)してスポーツセンターを作る。1回500円~1000円くらいの費用で、床運動、マシントレーニング等の運動がしたい。 千葉市・東京都・名古屋市で市営のスポーツセンターを利用した経験がある。よかった。他の市の研究をしたらどうでしょう。	
	250	・気軽に安価に利用できるスポーツ(高齢者向け)のできる場所の整備	
	251	・自治会活動 自治会の中で運動する場所、イベントを確保する必要がある。	
	252	・高齢者ができるスポーツ(例えばグランドゴルフ)の場所が校区内に多くあるとよい。	
	253	・スポーツの後にお茶、軽食のできるサロン・クラブハウスが必要。イベントが終わったら解散してしまう。打ち上げ、世話をする人がいる。	
	254	・公園が活用されていません。(トレーニングマシンの置いてある公園は日本にはありません。公園に人がいれば子どもたち見守られるかもしれません。)	

キーワード	番号	意見	市の回答
スポーツ・人材育成(人づくり)	255	・高齢者向けのスポーツ ニュースポーツ、ウォーキングなどの指導者育成を高齢者対象で実施しては。	レクリエーションなどを指導する施設職員の活用や指導者の育成は重要な課題です。条例では、「人材の育成及び活用」について明記します。 宇部市スポーツ推進計画に基づき、指導者やスポーツ推進委員の資質向上、スポーツボランティアの育成に努めます。また、平成26年10月に設立した官民協働のネットワーク組織である宇部市スポーツコミッションにより、人材育成、指導者・専門家の活動場所の拡大・交流促進に努めていきたいと考えています。 ご提案の具体的な内容については、宇部市健康づくり計画の見直しの中で検討します。
	256	・指導者、リーダーシップを持った人、旗を振る人が必要	
	257	・高齢者でもできる、例えば吹き矢等のインストラクターかサポーターの育成	
	258	・デイサービスの支援における技術＝レクリエーションの技術、施設職員のレクリエーション技術が外に向けて発信されていない	
	259	・ニュースポーツへの取組推進。ペタンク、クップ、カローリング、ノルディックウォーキング インディアカ、ソフトバレーは高齢者への負担が大きい。ニュースポーツの器具は高価、貸出あり	
	260	・韓国では「敬老堂」という高齢者100人に1箇所を作り、そこに集まった人の中からリーダー育成や運営について市の保健師等が関わっているそうです。	
スポーツ・仕組	261	・民間スポーツ施設費用補助を考えてはどうか。新たな市の設備を作るコスト、ランニングコストを考えると現実的だと思います。	ウォーキングマップについては、現在市内の全24校区で作成しており、さらなるPRを行い利用促進に努めます。民間スポーツ施設との連携については積極的に推進すべき課題だと理解しています。ウォーキングコースの整備などについては、条例で、スポーツのしやすい仕組みや環境づくりを市の責務として明記します。 宇部市スポーツ推進計画に基づき、地域にある公共施設、民間施設の利用促進、また、地域住民がだれでも、いつでも、気軽にスポーツ・健康づくりに取り組める総合型地域スポーツクラブの設立支援に努めます。また、平成26年10月に設立した官民協働のネットワーク組織である宇部市スポーツコミッションにより、民間施設等と連携して、市民が身近な地域でスポーツ・健康づくりに取り組める場所の提供や全市的なスポーツ・健康づくり事業の推進や普及啓発に努めていきたいと考えています。
	262	・生活習慣病対策のため、各校区でのウォーキングコースの整備、マップ作りコースもマップもあるが利用の継続がされていない。参加年齢層は様々。アンケートを取るとウォーキングの希望は多い。ふれあいセンターの職員が知らない。情報の集約がされていない。専用のサイトを作ってはどうか、広報の必要あり。イベントが必要、イベントの最後に食べる楽しみがあるといい。ただもしくは100円程度の経費で	
	263	・ウォーキングについて1人で歩くのは不安、仲間・サークルが必要。人のつながりが、「連れ」がいる。環境整備により街全体が健康になる、仕掛けが必要。	
	264	・生涯スポーツ、主にねんりんピック種目(例:卓球、ソフトテニス、GG等)から数種目を決め推進されてはいかがでしょう。	
	265	・高齢者でも気軽に参加できるスポーツを考えていただきたい。ソフトバレーボールやインディアカは体力的に無理になった。	
	266	・団地の中の公民館で「貯筋運動」を行います。「貯筋」の額を地域で集計し表彰されると励みになる。	
	267	・子どもも高齢者もできる体操を考えあらゆる施設(幼稚園、学校、地域のセンターなど)に広めてはどうか。体力づくり、昨日維持のため。	
スポーツ・啓発	268	・高齢になってから運動を始めるのは大変なことです。若いうちから運動する習慣が必要だと思う。会社など勤務先で若い人が運動に取り組めるようなシステム作りが必要だと思う。例えば「水曜日は運動の日」など	市・スポーツ関係団体、事業所及び教育機関によるスポーツの啓発活動や相互連携による協働について条例で明記します。 平成26年10月に設立した官民協働のネットワーク組織である宇部市スポーツコミッションにより、民間施設等と連携して、全市的なスポーツ・健康づくり事業の推進や普及啓発に努めていきたいと考えています。
	269	・若い人も家に引きこもり、外出しない人がいると思う。若いときから趣味を持つことができるよう一人ひとり意識づけをしていくことが必要だと思う。生きがいを見つけることが大切	
スポーツ・連携	270	・団体の利用 レクリエーション協会、体育協会、デイサービス施設の連携、情報交換、協同事業の実施	
スポーツ・その他	271	・居場所を作ったとしてもなかなか人は集まりません。どんな方法があるか知りたい。	
	272	・健康体操に行っていますが、本当に高齢者の方が多く健康のことを気にされているのが分かった。長く続けてほしい。	

キーワード	番号	意見	市の回答
出かける場所づくり・場所	273	・げたばきで歩いて行ける範囲(半径500m)にたまり場をつくる。(香川県高松市の居場所づくりの取組)	<p>介護をする人も受ける人も行けるような場や異なる世代が集える場が求められています。条例では、「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」について具体的に明記するとともに、地域コミュニティや関係団体に積極的な取り組みを期待しています。</p> <p>また、ご近所福祉推進活動など、地域の人が集える居場所づくりを引き続き推進します。</p>
	274	・商店街の空店舗を利用してだれでも来られるカフェみたいなのを作ってはどうか。(ボランティアでお話できるような)在宅介護されている家族と本人も一緒に来られるような場所(主に高齢者を対象として考えています。)	
	275	・現在、まちづくり、出かける場づくりを宇部市として取り組まれていると思うが、高齢化して足腰が弱くなった方々にせつかくの「場」を作ってもそこへ行けない方もいるのではないかな。そのような方々への配慮はどうされているのでしょうか。	
	276	・移動する(式の)集いの場所づくり	
	277	・子どもも大人(高齢者)も集える場所づくり	
	278	・ふれあいセンターを利用してお茶を飲む場所があるとよい。	
	279	・おやじの会 男性高齢者が自由に集まっているいろいろな交流ができる場所が必要 集りの中での飲酒の問題 目的をもった打ち合わせ、区切りをはっきりさせて最後に飲み会	
	280	・ご近所福祉「東割ともだちの輪」を9月18日オープンすることとなり、だれでも来ていただいて話や折紙などで楽しんでもらいたい。映画の日というのがあります。	
出かける場所づくり・人材育成(人づくり)	281	・たまり場、サロン等を運営できる人づくり	
	282	・人材(登録)バンク制度づくり。人材バンク的なボランティアの活用 社会福祉協議会、傾聴ボランティア	
出かける場所づくり・仕組み	283	・ご近所、友人、知人に同年齢の人たちに自分の生きがいや何か一つでもいいから自分で見つけるように心掛けるように声を掛け、話し掛ける機会を作る場所が提供されるといいかなと思います。	<p>人が集まる仕組みをつくることも重要な課題です。仕組みづくりを含めた環境の整備について市の責務として条例に明記します。</p> <p>また、ご近所福祉推進活動など、地域の人が集える居場所づくりを引き続き推進します。</p>
	284	・出かける場はもとより交通手段をしっかりと整備する必要性を感じます。	
	285	・高齢者の方の出かけていく場所がありません。(特にインフォーマルサービス)元気な高齢者ができる本領発揮の事業、仕事ができる場所の提供があるとよいと思う。	
	286	・元気な高齢者の増加のために自治会単位の取組が必要	
	287	・認知症カフェを開きたい。他にもいきいきサロンや地域参加型機能訓練やご近所福祉が団地ごとにできるといいと思う。(これからの世代はいろいろな趣味をされていた方が多くその力を活用してほしい。)	
	288	・小さな商店も閉店してしまった団地に軽トラに魚や野菜を積んできて「市」のたつ日を作ります。その日は団地内の日頃出かけないお年寄りが集まりおしゃべりし、ご近所同士交流がはじまるいいと思う。	
	289	・宇部弁当等地産地消の食を囲んで昼食会等地区ごとに指定店を作り、月一度日っ払いを決め高齢者の方に集まっていたらいいと思う。	
出かける場所づくり・啓発	290	・啓発活動の工夫が必要	啓発については、効果的なPR方法等、工夫に努めます。

キーワード	番号	意見	市の回答
出かける場所づくり・その他	291	・人と人とのつながりづくり	出かける場所づくり、仕組みづくり、環境づくり及びボランティア・指導者などの人材育成については、一体的な展開が必要です。条例においては、市や地域コミュニティにその役割があることを明記します。
	292	・はつらつポイントの認知度は。ピンとこない、市が啓発をしているのは知っている。イベントに参加することでポイントがたまる。ポイントを貯めてご近所福祉に寄付している。	
	293	・場所、指導者、しくみが必要。場所も物理的な場所と共有できる「場」の二つが必要	
	294	・誰がやるのか課題、やってきたが続かない現実もある。	

【第9グループ】 討議テーマ：〈まちづくり〉 保健・医療・福祉・介護の連携

キーワード	番号	意見	市の回答
早期の健康づくり	295	・元気な高齢者を増やす(60歳代後半の男性が活躍出来る場所)	「基本理念」において、市民一人ひとりが健康づくりの取り組みを主体的に行うこと、「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」の中で、生涯にわたる健康づくりのための環境整備を、また、教育機関等と連携・協働による幼少期からの健康教育や健康指導を条例で明記します。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	296	・若年者の方が通える場所(集まり)が少ない	
	297	・早目早目の健康づくり	
	298	・栄養士・療養士への相談	
	299	・健康長寿・健康維持ができるように役割が必要(出掛けて行けるように特技を利用しての活用)	
	300	・気楽に話し合えるサロン・医療・介護の相談	
	301	・介護予防事業の充実(ご近所福祉、いきいきサロンの拡大)	
高齢者の活動	302	・ふれあい塾のように各地域で学習の場があり集いができればよいかも	「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」の中で、生涯にわたる健康づくりのための環境整備を、また、「心身の健康づくりの推進に関する施策」の中で、地域での学習の場づくりについて明記します。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	303	・高齢者を中心としたイベントが多くあれば	
	304	・集落ごとの集い・見守り体制をつくる	
	305	・買い物など便利屋さん	
	306	・草、庭の手入れなどのサポート(介護保険利用できるサポート)	
地域の交通事情	307	・健康教室への参加に車を利用又は送迎付き	「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」の中で、生涯にわたる健康づくりのための環境整備を、また、市の役割として「人材の育成及び活用」に健康づくりを推進するボランティアについて明記します。
	308	・健康教室等に参加するための交通手段がない(交通機関、金銭面補助)	
	309	・高台に住む住民の買い物・通院の交通事情(寄り合いタクシーの充実、デマンド交通)	
	310	・受診や買い物など移動時のボランティア	
	311	・不便な地域に行政が教育に入っていく必要があるのでは	
医療・介護・体制	312	・看護師は兼務する	「保健医療福祉関係者の役割」として、保健医療福祉サービスを市民が適切に受けることができるよう配慮するものと、また、医療・介護を受けやすい環境づくりについては、「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」を明記します。 障害者の医療については、宇部市障害者福祉計画に位置づけられており、御提案の内容は、宇部市障害者福祉計画の見直しにおいて検討します。
	313	・入院時の身寄りのない人の保証人(手術)	
	314	・精神障害を持つ方の往診等の医療支援	
	315	・地域でのリハビリ専門職の活用と介護サービスの連携強化	
	316	・往診の拡大(過疎地、精神科)	
	317	・山間地域でも医療を受けやすい体制づくり(訪問診療、往診、診療所)	
	318	・シームレスなリハビリテーションサービスの提供体制	
	319	・地域において医療機関のばらつきがある(北部地域にもあれば・・・)	

キーワード	番号	意見	市の回答
情報の共用	320	・各事業所や施設等の周知・役割・一本化	「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」の中で、生涯にわたる健康づくりのための環境整備を、また、関係機関と相互に連携し、情報を共有化するとともに、適切に情報発信することを明記します。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	321	・既存資源の見直し	
	322	・認知症高齢者の見守りや強化	
	323	・見守り安全ネット等の事業拡大	
	324	・認知症サポーターの活用	
	325	・高齢者夫婦や親と子ども等同居について問題を抱えている人(発見一支援)	
	326	・ネットワークの強化(高齢者110番)民間業者の見守り強化	
	327	・ITの利用、データ分析・共用	

【第10グループ】 討議テーマ: <まちづくり> 保健・医療・福祉・介護の連携

キーワード	番号	意見	市の回答
居場所づくり(つながる場所)	328	・みんなが集えるサロン。家から500メートル以内で。	「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」の中で、生涯にわたる健康づくりのための環境整備を明記します。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	329	・定年退職者が集まれる場所づくり。	
	330	・企画によっては参加者が限られ参加する行程にひっきり入れない人が多い。小規模で身近な企画で望む。	
	331	・後期高齢者が自立して独居でも大丈夫な地域づくりです。	
	332	・ひとりぼっちにしないために地域の見守り、声かけ。	
お助けネット(共助の精神)	333	・専門職の隙間を埋めるシステムを望む(ボランティアの活用等)	「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」に生涯にわたる健康づくりのための環境整備を明記します。 また、市の役割として「人材の育成及び活用」に健康づくりを推進するボランティアについて明記します。 また、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	334	・介護等ちょっと困ったときに活用できる支援・仕組みづくりを考えて欲しい。	
	335	・地域からお店が消えて買い物が大変である。買物支援を望む。	
	336	・ボランティアがまだ少ない。有償にしたらどうか。例えばシルバー人材センターの活用。	
安心できる住まい	337	・民生委員の見守りのお願いは敷居が高い。そこまで関わらないまでも、もう少し身近なところで支援、見守りづくり。	「健康に配慮したまちづくりの推進に関する施策」の中で、生涯にわたる健康づくりのための環境整備と健康に優しい住環境の整備を明記します。 また、御提案の高齢者の住宅については、現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	338	・単身高齢者でも安心して住めるところ。また、施設という枠組みでなく支援して欲しい。	
地域→病院 病院→地域の連携	339	・安い家賃で住める高齢者住宅を望む。	現在策定中の宇部市高齢者福祉計画の中で検討します。
	340	・第三者から見て受診が必要と思われるが、受診を断られる方を病院へつなぐ方法。	
	341	・地域とつながりがいい方との関わり。アウトリーチが必要。	
	342	・退院前に一週間でも在宅サービスを利用し在宅生活のイメージを持てるようにする。	
	343	・退院前に介護サービス体験を実施するとイメージしやすい。	
344	・地域包括支援センターへ相談。介護保険や日常生活の困りごとを聞いてくれつないでくれる。		

キーワード	番号	意見	市の回答
情報の管理・提供	345	・素人に分かるような説明を心掛ける。	情報発信については、受け手の立場に立ったわかりやすいものとなるよう努めます。
	346	・どの分野でも個人情報保護(収集～廃棄まで)をルール化して欲しい。	
	347	・健康づくりの関心が上昇しているが、各地区推奨のコースとかを情報を発信する。やろうとする気を起こさせる。	
行政の課題	348	・法規制に柔軟に対応し、現在あるものをうまく活用して欲しい。	御提言の内容等様々な課題に対応していくため、「健康づくり推進審議会の設置」の中で、健康づくりの推進に関する事項を調査審議すると明記します。 オレンジサポーターなど、認知症の理解者を増やす取り組みを進めます。
	349	・公的機関(特に警察など)との連携や認知症の理解の強化を望む。	
	350	・市民全員に認知症を理解してもらい、支えあうまちづくりを。	